

自治体のヤングケアラー支援

多部署間連携の事例からつかむ支援の手がかり

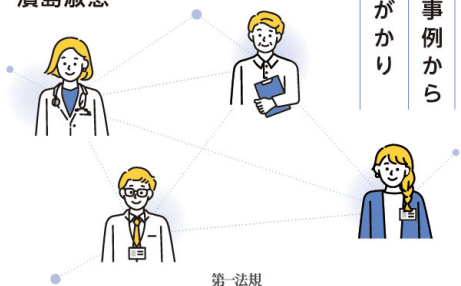
内尾彰宏・濱島淑恵 [編著] A5判・200頁 定価3,080円(本体2,800円+税10%)

自治体のヤングケアラー支援

SUPPORT FOR
YOUNG CARERS
IN LOCAL AUTHORITIES

[編著]
内尾彰宏
Hamashima Yoshie
濱島淑恵

多部署間連携の事例から
つかむ支援の手がかり



- ヤングケアラーに、自治体はどのような支援を提供できるのか、実際の支援事例を通してわかりやすく解説！
- ヤングケアラーの認知から、適切な機関への引き継ぎ、支援までの流れがつかめる。
- 事例を通じて、部署横断的で多領域にわたるヤングケアラー支援策のヒントが得られる。

第一法規

第2部 支援活動事例

第2章 各自治体の対策

3 ヤングケアラーを支え続けるスクールソーシャルワーク

現在、兵庫県内でスクールソーシャルワーカー（以下、「SSW」という）として働いており、支援が必要な児童・生徒約150人を担当している。その中の5分の1以上が、ヤングケアラーである。これまでの活動から、多職種連携で進めた事例を2つ紹介する。なお個人情報保護の観点から、本書における事例はいずれも個人が特定されないよう趣旨に影響のない範囲で加工した。

case 3 精神疾患の父をサポートしている中学生

①支援活動の概要

中学生Aさんは、もともと不登校であったが、父の入院に伴い一時保護されていた。父子家庭で他に身を寄せる親類もいなかったからである。学校からSSWへ依頼があり、父の退院とAさんの家庭復帰に向けたケース会議から、この世帯に介入することとなった。

父の精神疾患はこれまで長期間にわたり安定することがなく、Aさんは父の病状が悪化すると、不衛生になり、食事もとれないことが多かった。父の業はAさんが管理し、父の不安が強い時は、病院や買い物についていった。休日は、父が家で落ち着かなくなると、父の行きたい場所についていき、一日中一緒に歩き回り、途中で父がしんどくなると介助をしていた。

学校から、父にAさんについて話をすると、怒り出したり、後で話が変わったり、間違えて記憶していたため、対応に苦慮していた。Aさんは、一時保護中に子ども家庭センターで発達検査を受けた結果、軽度知的障害であることが判明した。中学校卒業後は、サポートを受けられ

2 大阪市におけるヤングケアラー支援の実践例

児童福祉の部署にヤングケアラーの相談・支援機能を持たせる自治体も複数見られる。ここでは早くからヤングケアラー支援に積極的に取り組んできた大阪市の取り組みを例として挙げる。

case 2 プロジェクトチームが既存の仕組みを活用し、総合的な支援体制を組み支援につなげている大阪市

①ヤングケアラー支援に向けたプロジェクトチーム会議

大阪市の特徴として、ヤングケアラー支援体制の構築に向けて、関連する部局が集まり議論する「ヤングケアラー支援に向けたプロジェクトチーム会議」（以下、「PT会議」という）の存在が、まず挙げられる。PT会議は、2021年5月に立ち上げられ、副市長をリーダー、子ども青少年局長、教育次長をサブリーダーとし、区長（地域の代表）、福祉局長、健康局長で構成されており、子ども青少年局と教育委員会事務局が事務局を務め、2022年度までに計6回開催されてきた。

ヤングケアラーの発見・支援は、これまでも述べてきたように、児童福祉、教育、障害者福祉、介護、高齢者福祉、生活保護など、様々な領域の啓発、発見・支援における協力体制の構築が不可欠である。さらに政令指定都市にあっては、より市民に身近な各区での取り組みが必要となる。これらの代表が一堂に会し、ヤングケアラー支援に関する課題について共通認識を持ち、今後の方向性を協議し、ともに取り組む体制が組まれている点は、注目すべきであろう。



第1章 国の対策

第1節 ヤングケアラーとは

- 1 ヤングケアラーの定義等
- 2 ヤングケアラーが生まれる社会的な構造
- 3 ヤングケアラーの見えにくさ

第2節 国におけるヤングケアラー支援に向けた取組

- 1 実態調査等
- 2 「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム」設置の背景及び報告書の概要
- 3 プロジェクトチーム報告書を踏まえた取組【予算関係】【調査研究】【児童福祉部門以外の部門の施策等】

第3節 政治的な動向

- 1 ヤングケアラー支援に係る国会での議論
- 2 ヤングケアラー支援推進検討会

第4節 自治体におけるヤングケアラー支援のために

- 1 自治体の取組とその「温度差」
- 2 まずは実態調査から
- 3 多部署間連携の重要性
- 4 こどもの気持ちへの寄り添い
- 5 こども家庭庁とこれから

第2章 各自治体の対策

第1節 ヤングケアラーに必要な支援

- 1 ヤングケアラーに関する周知・啓発
 - (1) 教員、専門職等の周知・啓発
 - (2) 障害者福祉、介護・高齢者福祉領域での周知・啓発も不可欠
 - (3) 地域のインフォーマルな資源への周知・啓発
 - (4) 正しい理解を広める

2 ヤングケアラーの定義について

- (1) 2つの条件
- (2) ケアの程度

3 ヤングケアラーに気づく仕組み

- (1) 「ヤングケアラーあるある」を学ぶ機会
- (2) ヤングケアラーに気づく仕掛けを考える
- (3) 教育現場における人的充実
- (4) こどもの気づきを促す前に

4 ヤングケアラーの支援

- (1) 家族への支援—ヤングケアラーのケア負担の軽減・解消
- (2) こどもへの支援—ケアをしながらも自分の人生を歩む
- (3) 寄り添う支援

5 ヤングケアラー相談窓口の設置と多職種連携のネットワークづくり

- (1) ヤングケアラー相談窓口の設置

第2節 支援活動事例

1 神戸市におけるヤングケアラー支援の実践例

- 1) 神戸市のヤングケアラー発見・支援の仕組み

- (1) 日本で最初のヤングケアラー相談窓口設置までの経緯
- (2) こども・若者ケアラーの把握・支援体制
- 2) 現在の相談状況
- 3) 多機関・多職種連携による支援事例

【case1】Aさんの事例 障害者相談支援センターからの連絡

- 4) 神戸市におけるヤングケアラー支援の特長と意義・課題

2 大阪市におけるヤングケアラー支援の実践例

【case2】プロジェクトチームが既存の仕組みを活用し、総合的な支援体制を組み立てにつなげている大阪市

3 ヤングケアラーを支え続けるスクールソーシャルワーク

【case3】精神疾患の父をサポートしている中学生

【case4】幼い兄弟の世話をする中学生Bさん

- 4 特定非営利活動法人「ふうせんの会」の軌跡と「大阪市ヤングケアラー相談支援事業」～新たな支援拠点の創設に挑む～

【case5】高校・スクールソーシャルワーカーから卒業後のサポートを引き継いだ事例

【case6】区役所子育て支援課から高校卒業後の自立支援を引き継いだ事例

【case7】高校の支援コーディネーターからの事例

【case8】社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーからの事例

【case9】入所施設からの事例

第3節 事例の振り返り

1 ヤングケアラー支援のポイント

2 家庭状況の把握について

3 3つの視点でのアセスメント

- (1) ケアを要する家族の視点
- (2) ヤングケアラーの視点
- (3) 大人のケアラーの視点
- (4) その他

4 3つの支援

- (1) ヤングケアラーの家庭環境の改善
- (2) ヤングケアラー自身への支援
- (3) 寄り添う支援

5 多機関、多職種連携の必要性

- (1) 家庭の状況、問題、ニーズの把握
- (2) ヤングケアラー、大人のケアラー視点での支援の検討
- (3) 支援過程のなかでの多機関・多職種連携の必要性
- (4) 調整役の必要性

6 ヤングケアラー支援体制の構築におけるポイント

- (1) 理解ある地域づくり
- (2) 周知・啓発の重要性
- (3) 相談窓口があることの意味
- (4) 具体的なヤングケアラーとその家族への支援の整備
- (5) 既存の社会資源の活用的重要性
- (6) 民間団体がヤングケアラー支援を担う意義

7 今後の課題

あとがき

～「市区町村におけるヤングケアラー把握・支援の効果的な運用に関する研究調査報告書」を踏まえて～

詳細・試し読み・お申込みはコチラ

<クレジットカードでもお支払いいただけます>



第一法規

検索

CLICK!



キリトリ線

申込書 (第一法規刊)

自治体のヤングケアラー支援—多部署間連携の事例からつかむ支援の手がかり—

●定価3,080円(本体2,800円+税10%) [コード092502]

申込部数

部

*弊社宛直接お申し込みいただく場合、一回のご注文でお届け先が一箇所、お買い上げ合計金額5,000円(税込)以上のご注文は、国内配送料サービスといたします。また、お買い上げ合計金額5,000円(税込)未満のご注文については、国内配送料550円(税込)にてお届けいたします。

*消費税は申込日時の適用税率に依ります。

◎上記のとおり申し込みます。代金については、次に示す方法にて支払います。

*現在、弊社とお取引のないお客様につきましては、代金引換にてお支払いをお願い申し上げます。

(いずれかを✓で選択ください。) 代金引換により支払います。 現金到着後請求書により支払います。

*代金引換手数料について 一回あたりのご購入金額 (商品の税込価格+送料)の合計が	1万円以下の場合、330円(税込) 3万円以下の場合、440円(税込) 10万円以下の場合、660円(税込)	*送料・代引手数料を含む合計金額は、商品のお届け時に配送業者にて現金でお支払いください。その際、クレジットカードはご利用いただけません。
---	--	--

年 月 日

〒

ご住所

機関名

部署名

公用
私用

フリガナ

ご氏名

様

TEL

E-mail

@

お客様の個人情報の取扱いについて

お客様よりお預かりした個人情報は、納品や請求書等の発送・アフターサービス、弊社製品・サービスのご案内などの目的のために利用させていただきます。また、お客様の個人情報は、弊社ホームページに掲載のプライバシーポリシーに基づき適切に取り扱います。なお、個人情報についての開示、修正・削除・利用停止を希望される場合、その他お問い合わせにつきましては、お問合せフォーム(https://www.daichihoki.co.jp/support/contact/contact.php)からフリーダイヤルにてご連絡ください。フリーダイヤル ☎TEL.0120-203-696 ☎FAX.0120-202-974

取扱い

この申込書は、ハガキに貼るか、このままFAXで下記宛お送りください。

■宛先

〒107-8560
東京都港区南青山2-11-17
第一法規株式会社
☎FAX.0120-302-640

書店印